

わんにゃん通信

2019年
12月号

新名

今年も終わりに近付いてきました。

大掃除にお正月の準備と大忙しです。

寒さも厳しくなってきましたので

風邪など引かないようお気をつけて

お過ごしください(#^.^#)



●命に関わる冬に多い病気●

冬に注意が必要な病気はたくさんあります

今回は特に命に関わることもある病気二つに

ついてお話ししていきます。

●一つ目は「犬の甲状腺機能低下症」です。

中高齢の犬に多く見られます。

喉の気管の横にある甲状腺という臓器から、

甲状腺ホルモンがうまく出なくなる病気です。

甲状腺ホルモンには体の代謝を上げる作用があります。

そのホルモンが不足すると食べ物を食べてもうまく熱を

産生することができず、**低体温やむくみ、活動性の低下、**

皮膚のかさつき、脱毛などの症状が見られます。

冬に心配な点は、**重度の低体温になり、生命のリスクが高まってしまう点です。**



●二つ目は「猫の尿石症による尿路閉塞」です。

様々な年齢で見られ、一般的にはオスに多いとされています。
狭い尿道に結石が詰まり、尿がまったく出せなくなってしまう病気です。1日程度でも重度の尿毒症に陥り、生命の危険があります。症状は血尿のほか、何度もトイレ出入りする、何度も排せつのポーズをとる、排尿していないなどです。



寒くなると人間も体調を崩しやすくなります。

ペットも同じです。

一般的に泌尿器や呼吸器、関節や運動器の病気が冬になると多くなると言われています。



●泌尿器の病気●

冬場、飲水量が減ると尿量が減るため、尿石症や膀胱炎を起こし血尿や頻尿になりやすいので水を多く飲ませるようにしてください。



●呼吸器の病気●

冷たい外気や暖房で乾燥した空気によって、喉の粘膜が弱くなり、風邪を引いて人と同様にくしゃみや咳をしやすくなります。定期的な換気や加湿を心がけてください。



●関節や運動器の病気●

寒いと体の血行も悪くなるからです。休日などにいつもと異なる急な激しい運動や長い散歩をしたりすると、関節や靭帯を痛めやすくなります。徐々に体を温めてから運動させましょう。

